

令和7年度 こども園（保育園）関係者評価

施設評価シート

子育てセンターひだまり

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 8年 2月 17日 13:30 ~ 15:00 (ミーティングルーム)

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 2名 地域委員 2名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

自己肯定感・貢献感・感謝の気持ちを育む
いきいきと活動できる子・おもいやりのある子・ありがとうの気持ちを表せる子

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

子どもたちの「やりたい」があふれる園づくりのために環境設定（物的・人的）を学びます。
（テーマ）『みーつけた』
「好きなこと」「好きなひと」「好きなばしょ」があふれる『ひだまり』

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価	評価理由	最終評価	評価委員から
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	・今年度から全職員に重点目標や経営書、保育ハンドブック等の入った「ほかほかあったか ひだまりファイル」を配布したため、意識することやいつでも見返すことにつながっている。 ・クラスカンファレンスの中でも「いいとこみつけた」と題し、子どもたちの主体的に遊ぶ姿や場面を見つけて記入し、次月の計画につなげる取り組みも行っている。	4	・目標を理解し、職員が意識していると感じる。 ・職員が子どもの気持ちに寄り添い教育・保育を行っていることがわかる。 ・教育・保育目標を意識した教育・保育を行っていることを評価委員の参観会を通して感じた。 ・職員がグランドデザインを意識、理解して教育・保育をしていると思う。 ・職員同士で話し合いをしていたと感じる事が出来た。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	・やりたいがあふれる環境づくりについて教育保育や室内環境を振り返り、見直すことをしている。職員も人的環境と捉え、カンファレンス等で振り返っている。 ・教育・保育の計画は立案をするが、職員への周知が難しいとの振り返りがある。昨年度からも周知の難しさが課題であった。今年度、話し合いの計画も実践までに至らず、2月から話し合いの日と時間を決めて取り組んでいくこととした。職員同士、話し合いとしての時間はとれなくても、日々のコミュニケーションや計画を見ること、聞くことを自ら意識している。	4	・環境に応じた対応は、今でも十分出来ていると感じるが更に高めていけると良い。 ・話し合いの日を時間を決めて取り組むことは教育・保育の質を高めるうえで大切であると思う。 ・異年齢のかかわりを大切にしている事や実践している事が保護者に理解されている。年長児への憧れの気持ちを大切にしている事も分かる。 ・教育・保育の計画実践をしていく中で、職員同士のコミュニケーションが取れていると感じる。
III. 子どもにとっては 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心行くまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	3	・子どもの気持ちに寄り添うことを常に意識し、対話をしながらその子自身の気持ちを聞くことを大切にしている。前年度より職員の意識が高まっていると感じる。 ・職員によって「主体性」の考え方、価値観が違うこともあるが、園内研修や秋季研修、カンファレンス等で大切にすることを共通理解できるように計画し、繰り返し話し合っていくことを意識していく。	4	・子どもの主体的な姿、やりたい気持ちを大切にしていることがわかる。 ・職員が、子ども一人ひとりの特性を理解し、寄り添いながら活動や生活を含め、配慮している。 ・行事のねらいや目的を職員同士話し合い、子どもにとって何が育つのか等を今後考えていって欲しい。

<p>IV. 家族にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対応は「気持ちのよい挨拶から」を心掛け、丁寧に行っている。話をする保護者の方が偏らないように意識している。時差勤務で保護者の方に会えない職員も伝えてほしいエピソードを他職員に伝達する工夫も見られる。 ・おたより、週の計画はわかりやすく、早めにお知らせを意識したが、来年度も課題としていく。 ・ブログ等で園での活動や大切にしていることを発信していくこと、職員同士アドバイスをしながら良いものを作成できるよう努力をしていく。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への子育て支援が十分に出来ている事が伝わる。 ・子どもの表情から、気持ちに寄り添ってくれている事が分かる。 ・保護者が園を信頼している事が、アンケートから感じられる。 ・打刻機の近くにおたよりなどが掲示されたのが良かった。
<p>V. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・支援センター利用者や園見学者が多くいる。園のことを知ってもらい、何度も利用してもらえ、入園につながることもある。 ・気軽に相談ができる雰囲気や聞く姿勢も意識していきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談が出来る雰囲気が良い。 ・支援センターの中で、子どもと触れ合いながら子どもの発達についてなど職員と話が出来るアドバイス等頂けるのが良い。 ・今後も支援センターやブログなどを通して、子育てをされている方の拠り所になってもらいたい。
<p>VI. 保育者にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性が活かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員での研修は共通理解ができ、大変良い機会となっている。来年度から幼児部・保育部の混成クラスへスムーズに移行できるように取り組んでいる。 ・快適な職場づくりを目指すために、仕事を分担していることからお互い思いやり気持ちや感謝の気持ちをもち、言葉にして伝えることを大切にしていく。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果そのものが充実した研修が出来ていることを立証している。 ・保育の質を高める研修を今後も続けてほしいと思う。 ・今後も子どもの成長、良さ、気持ちを理解出来る保育教諭であって欲しい。